

2018年度 JICA 本邦高齢者福祉研修 研修生帰国報告

佐藤 満

Sato, Mitsuru

所属：ピラポ日本人会
事務局長



研修で学びたかったこと：

地元ボランティアスタッフの後継者確保と人材育成について、どのような対策を講じていて、またその実態は如何なのか。研修先で実際に行なっているデイサロンなどを見聞し、活動内容の相違点を参考としたかった。

研修で印象に残ったこと：

国が制定している高齢者福祉に関する保険制度などが充実していることに加え、各分野で専門資格を持ったスタッフが対応できる体制が整っていること。
地域によっては、パラグアイ国内で実施しているデイサービスと類似している場所もあった。

今後の目標：

高齢者福祉事業進展の重要性の啓蒙を行いたい。
後継者確保と人材育成にあわせて活動の充実・活性化を図りたい。
研修先で練ったアクションプランを前向きに検討し、実現に向けて取り組みたい。

荒槇 正身

Aramaki, Masami

所属：アスンシオン
高齢者福祉運営員会 委員長



研修で学びたかったこと：

日本の高齢者福祉活動の内容全般。
介護用具の種類（サロン活動で使用している物）。
利用者の参加費の負担額。
サロン活動の運営方法・ボランティアの参加者数。

研修で印象に残ったこと：

高齢者もボランティア役を担っていること。
筋力トレーニングへの参加者が多いこと。パラグアイでは、パークゴルフやゲートボールに関心が高い。
在宅での家事援助を受ける場合でも、相当の額を要すること。

今後の目標：

研修で学んだことを地域の活動に取り入れる。
利用者にもボランティア役を担ってもらいたいこと。
老人クラブと協議し、例会に参加させてもらう。
特定分野を協力してもらってボランティアを増やす。
元気なうちは、継続して活動に取り組む決意をした。

